夕刊
磐城新聞
四月二十八日發行
定價 一ヶ月 金五十錢
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

朝雲暮雨の大觀

林小波

雲

雲が赤井嶽の山背からもく〱湧き出した。綿を千切つて投げつけた樣な雲だ。高い山がひくくなる。雲は益々伸び上る。大空の限り迄伸びて伸び切つて、て〱〱と崩れ碎け、溶けて靉て消滅する

ここで見る雲程面白いものはない。大入道の如く、子羊の如く、群魚の如く、佳人のプロフィルの如く、醜女の鼻の如く、ジラフ首の如く、山嶽の如く、瀑布の如く、草原の如く、千態萬樣之を窮んで倦む事はない

夏雲は突として現はれ、忽として消失する。ここにも亦、不思議の魅惑がある

雨

雨が沛然と降つて來た

山嶽地方の雨は瞬間的にやつて來る

向ふの山に銀鼠の雲がちよつぴりと現はれたと思ふと、忽如として峰をかくし尾根を蔽ひ、森をぼかし、林を抱み、原野を呑んで一望模糊たる霧海と化さしめる

軈て一陣の風が颯と立つた山雨が沛然とやつて來る其の間、五十指を屈する暇もない位である

雷雨の時は更に雄大である。轟々と鳴りはためく電雷の響は、山嶽を震はせ、森林を壓迫し草木を震撼し人畜を提怖せしめる

チック〱アック形の電光は、山から山、峰から峰を縫ふて縱横無盡に處卒を飛躍し、黒雲を踏み破り樹間に閃めいて大自然の偉力を思ふ存分に發揮する、斯の如き勇壯、斯の如き自我、斯の如き放縱、斯の我慢が亦と此の世にあらうか

電光の向ふ處天衣正に無縫と云ふべきである。詩人の率も亦斯くありたいと思ふ

高原に立つて遙に自然を眺め、高原に立つて思ひを天空に馳せる時、實に吾等の心事は無碍無量の境涯に在る瞬間である

我が詩よ、秋草の如く美しく、夏雲の如く限りなく湧け、我が筆よ、電雷の如く走れ、我が心よ、虫の如く弱く、風の如く強く、雨の如くぬれてあれ

春ともなれば

伊能彌生

春ともなれば　うら若き
乙女心ぞ　惱ましき
夕東風冷ゆる　大空に
片割月の　影淡く
誦す相聞の　數々は
紫そむる　茜草
宵暗こめては　たまゆらの
夢いぶせくて　むせび泣く

春雜吟

小川端めだか追ひ行く影淺し　松井謹
枯れ芦の流れて去きぬ春の水　浪逆明太郎
早春の庭に殘りし白椿　直江正雄
鶯高く鳴きて舜ひけり日は暖　夢野愁華
山椿遍寺の鐘に散る日暮　吉田儉勝
夏井川雪を流して春の風　小夜美佐雄
雪晴れの庭に夕陽のかゝりけり　英田紀夫

車中看梅花

琢雲　小野務卒

春深偕樂古梅莊
維水維山指點忙
千朶萬枝花的歷
颷車十里引香長

4月29日 △最古の流鏑馬行はる（嘉保三）△ジャンヌ・ダーク、オルレアン入城（一、四二九）△足利尊氏卒去（延元三）△江名埋立工事土工岩塊に潰さる負傷（昭和一〇）

4月30日 △法隆寺炎上（天智帝一〇）△奥州高館の合戰、義經主從自刄（文治五）△英將ウェリントン生る（一、七六九）△米海軍の北太平洋大演習始まる（昭和一〇）

講談 黄金魔刄 (136)

高桑義生作　樋口悦也畫

奇緣の人々（七）

あくる師走の二十三日

江戸の市中に、何となく物々しい空氣がみなぎつた

雪は未明にやんでしまつたが、重い曇り空だ

『何かある』

誰もの氣持にさういふ豫感があつた

下町、殊に本所、深川一帶は、それが濃厚だつた。

貧民窟の人々は、朝まだ暗いうちから起き出して、出かけていつた

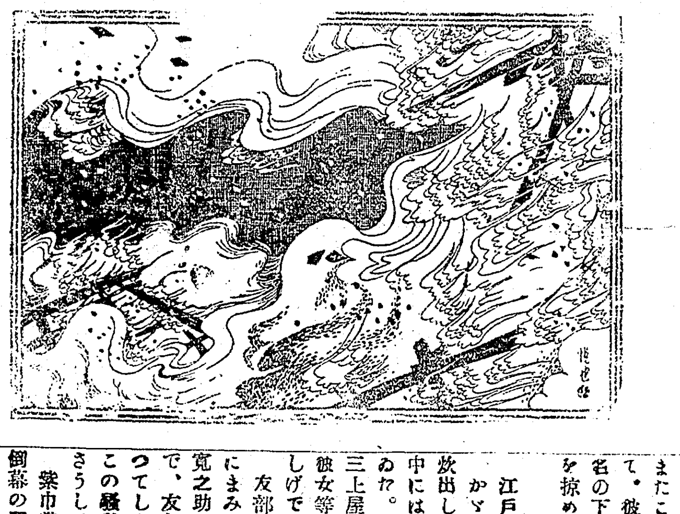
施しがあるといふ噂だつた。打ちつゞく全國の凶作飢饉――で米價は勿論の事あらゆる物の値段が、うなぎ上りにあがつた年の暮だ

貧乏人は年を越すことが出來ない。彼等は天を怨でゐた。上――幕府の政事を怨んでゐた。維力田沼を呪つてゐた

何かあればいゝ……と願つてゐた。世の中の變動を望んでゐた

時が移ると共に、不安な氣配はつのつた。町々で半鐘がけたゝましく亂打された

小路々々を拍子木を打ち太鼓を叩いて觸れ歩く者



異樣に鋭い人聲が虚空をつんざく

わあッ――といふ喊聲があがり、ごや〱と人の走る足音がする

江戸の市民が各所に蜂起したのであつた。彼等は行當りばつたりに――米屋や質屋を襲つた

山の手から見ると、下町の空はいたる處、濛々たる煙があがつてゐた

南北兩奉行所をはじめ、大名火消まで陸續と人數を繰出した。けれども虚をつかれた形で、廣い範圍にわたる暴徒をどう鎭撫していゝかわからなかつたのであつた

暴民は疾風迅雷の如く全市を席捲した

その中で、最も目に立つ働きをしたのは、金剛力士のやうな巨漢と、花のやうな美少年である――といふ巷の噂だ。

×

夜が來た

ときの聲が寒天にひびき警鐘は絶ゆる間がなかつた

辻々には、かゞり火が花と散つてゐた

市中十數個所の田沼家の下屋敷は、最も厳重に警戒された。意次は神田橋の上屋敷に居つて、刻々の報告を聞いてゐた。そして苦々しげに

『金をやれ、金さへやれば貧乏人は鎭まるのだ』

何處までも黄金萬能を主張した

×

大盜神道徳次郎の一黨がまたこの時に乘じて活躍して、彼等も豪商、或は諸大名の下屋敷を襲つて、黄金を掠め歩いた

×

江戸はくら闇

かゞり火。大勢の婦女が炊出しをやつてゐる。その中にはお染がゐた、お雪がゐた。指圖をしてゐるのは三上屋のお多津であつた。彼女等は忙しく、そして樂しげであつた

友部左衞門と寛之助が汗にまみれて走り廻つた、が寛之助は全然氣づかぬ樣子で、友部左衞門に從つて行つてしまつた

この騷動は三日つゞいた。さうして漸く鎭まつた

榮市黨の回天の事業――倒幕の運動は失敗に終つたのだ。竹内主計や、友部左衞門や寛之助の行方はわからなかつた

東六は單身島原屋東左衞門を襲つて、箕部錦藏のために斬られてしまつたさうだ。

彼等の仕事は失敗したが徒勞ではなかつた

（大尾）

次回連載小説 高橋是清

松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

現在連載の講談は愈々近日中に完結を告げますので、これに代る新連載讀物に就ては、先日來種々詮衡を重ねて來ましたが、愈々次の一大雄篇を讀者諸賢の御淸鑑に供する事となりました

新聞小説は飽まで時代に即したものでなければならないと云ふ建前から云つて、正にこれ以上の題材は求め得ないであらう事を確信し得る、絶對アプ・ツウ・デートの生きた小説であります。昭和十一年二月二十六日の曉を破る銃聲と共に痛ましくもその大生涯を閉ぢたこの大偉人は、彼が、單なる財界の救世主乃至國寶的政治家である以上に『ダルマさん』の愛稱をもつて、その白髯赭顔の温容がなつかしみ、親しみの對照となつてゐたゞけに、本篇は必ずや諸賢の熱烈な御支持を得る事と考へます

尚、作者は既に各種の娯樂雜誌の誌上に、獨得の名文を謳はれてゐる大衆文壇の中堅ですから御存知の方も多い事と思ひますが、本篇は氏の新聞小説としての處女作で、以て斯界に一新境地を開拓せんとするの熱意誠に烈々たるものあり、苦節十年の新進佐々木畫伯が質實敦厚の中に枯淡輕妙を秘めたる挿繪と相俟つて題材、作者、挿繪の三位一體の完璧を敢て誇る次第です

作者はかく語る

雪に吹き荒れた未明の嵐に、巨木は音もなく潰れた。高橋翁の薨去は、將に巨木の倒れたるにも比すべきであらう、財界の大立物は政界の巨人、否日本の至寶として翁の殘した功績は大きく、その最後は餘りにも痛ましい。翁に對して欣慕深かりし作者、今ここにその傳記小説を編む、涙なきを得ない

安政元年、舊幕臣川村の家に生れて、土に還るまでの翁の生涯は數奇を極め、作らずして一大長篇小説の觀がある、作者懸命の筆もよく之を寫し得るや否やを疑ふ。然し、作者は飽くまでも自己の信念の上に立ち在來の傳記小説から一歩飛躍したものを完成すべく努力したい。この一篇の中に人間高橋是清の眞面目を描出すべく努力する心算である。切に御愛讀を賜はらん事を（寫眞は右より松浦泉三郎氏、佐々木今朝吉氏）

急告

豆タク！豆タク！豆タク！の出現

春のドライヴに、商用に
迅速 低廉 ―― 市内三〇錢 市外地 普通料金四割引
鈴木自動車豆タク部 四丁目 電話二一七

國はニッポン・魚は湊魚
御小賣八 日本水産特約 平製氷會社 電二二八・三二六番
ヒノマル凍魚
鯛 銀鯛 北寄貝 / エビ 甘鯛 帆立貝 / 白魚 甲イカ 目拔切身 / 鱈 うに貝燒
平代理店 四丁目 ト印魚問屋 電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

磐城代表的の土産品
山。靈峰羊羹 里。柿羊羹 海。のり羊羹 各一本金十錢
右美麗三本箱入 特價三十錢
御旅のお出入に便宜な手頃のお土産品です
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元 小川郷驛前 平屋賣店

春……シーズン來る
運動具は大塚で
○野球グローブ 少年用 一、二〇〇から 大人用 一、七〇〇から
○野球ミット 少年用 一、五〇〇から 大人用 三、五〇〇から
○庭球ラケット 優秀なる品 百本限り 一、五〇〇から
○最新型 手下げバック 各種運動家に最適品
○リュックサック 各種……豊富に
○各種運動服裝類
なんでも豊富
平・田町 大塚 電話七十七番

耳鼻科 咽喉科 專門
（入院隨意 病室完備）
平町南町一六番地 大和田醫院 電一七〇番

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋 山崎合名會社 縣平町 電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物 金物問屋 （久） 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番 振替貯金口座 東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

整形外科 專門 X光線科
醫學士 大河内一郎
柔道整復師 大河内寅男
平町才槌小路四 大河内整形外科醫院 電話五八八

ほねつぎ
平町公園下
桑原柔道整骨院
電話六七四

石炭 一〇〇%サーヴヰス
時節柄ダンゼン値下げ！
一等塊 正味五十斤入一俵 金二拾八錢
特塊 同 同 金三拾五錢
品質が優良 量目方が正確 デナケレバ（値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス）
此の點は當店を絶對に御信用願ひます。
▲市内は一俵より迅速に配達致シマス。
石炭 コークス 豆炭 阿部石炭商店 電話三七番

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
病室完備 自炊ノ便アリ
醫學士 山内亨吉 山内醫院

外科、内臟外科 エッキス光線科 院長 安齋徹
新設……產婦人科 醫學士 黑澤廣
入院隨意 平町田町 安齋醫院 電話四七五番

躍進常磐

尖端を誇る代表鑛の採炭作業實況映畫化
前川技師の作品濠洲へ

磐城、入山、古河の所謂三大炭礦に於ける採炭作業は、コールカツター、或はドリル等精鋭なる尖端的勞力機械化により逐年目ざましき能率を上げ斯界に一新紀元を劃しつゝあるので、前川第二磐炭坑長が過般來磐城、入山等に於ける採炭及び捲揚げ實況等を映畫化して所藏中の處、此程某方面からの懇請により濠洲鑛業界の爲に提供する事となり非凡なる出來榮にはアマチユアとしてよりは寧ろ玄人に近き二千尺に亘る門外不出の映畫は現に彼地に送られ至る處に上映紹介され我邦鑛業界の爲萬丈の氣を吐いてゐる

勿來久の濱間 國道改修は地方繁榮の前提
愈よ實現運動に乘り出す

平町と神谷村を一直線に繋ぐ新鎌田橋の架換工事は既報の如く愈々着工の運びとなつたので取敢えず工事々務所を町役場廳舍内に設け着々準備を進めて居り內務省仙台土木出張所長福田次吉氏はこれが現場調査のため昨二十七日來平同夜住吉屋本店に一泊、今二十八日平發午前十一時七分で歸廳した

町では同氏の來平を機とし昨夜住吉屋本店で開かれた晩餐會の席上地元選出縣議等を通じ前記架換工事の完了後着工されるものと觀られてゐる、勿來―久の濱間國道改修工事に關し懇話の形式に於て種々これが實現方を陳情したのに對し同所長も其の改修の必要を認めて居るので

更に今二十八日町會議事堂で開かれた町村長會支會評議員會に際してもこれが促進方法を協議した

永年勤續吏員表彰

石城町村支會總會は三十日平町會議事堂に開き既報諸件を附議後左記永年勤續町村吏員の表彰式を擧行する

一八年四月―小名濱助役高木保 一五年一一月―山田收入役久保木直亮 一六年七月―植田書記小宅廣喜知 一五年五月―同小川普次 一六年八月―江名書記新妻和平 一八年―小名濱書記村上眞太郎 一八年―磐崎書記佐藤菊松 一五年四月―湯本書記內山吉五郎 一五年一一月―同高木守彌 一五年三月―內鄕書記吉田仙治 一六年―平書記佐藤伊太郎 一五年五月―好間書記志賀久吉 一五年一一月―永戸箕輪組合書記合津忠男 一五年四月―三阪澤渡組合書記涌井清水 一五年一一月―四倉書記宮澤正巳 一六年四月―大浦書記磯井伊助

優秀な健兒を網羅して平少年團活躍
更に五十名を增員

昨年十二月創設以來一糸亂れざる統制の下に着々健全なる發達を示しつゝある平少年團は、從來の健兒約八十名の外今回更に一段の擴大强化を圖る爲多數希望者中より學業健康その他に就き夫々詮衡の上五十名を選拔決定の上十九日の天長節を卜して午後一時から名簿登錄を更理不日更めて先輩健兒との顏合せを行ふ事となつたが之が爲指導員として第一校水竹、武藤、第二校酒井各訓導を增員した、因に發團式は本部より二荒伯若は三島子を迎へ六月七日頃擧行の豫定であると

教育者關係懇親觀櫻會

平町教育者關係懇親觀櫻會は既報の如く昨二十七日午後三時から第二校作法室で開催したが出席約九十名、輪番幹事校篠山第一校長の渾つた開辭あつて直に宴に入り各自大に胸襟を披いて逝く春の日を歡談大盛況裡に五時散會した

結核豫防强調
三小學校の催し

昨二十七日からの結核豫防週間に際し平町各小學校で朝會に於て講話、各學級

市制を布くには
先進地銚子足利を觀る
△生

十三

以上のお膳立により、調査委員は爾來數年に亘つて長野、松本、甲府、福島、米澤、前橋、高崎、宇都宮、岡山、高松、熊本、名古屋、濱松、豐橋、岡崎、大垣、宇治山田、八王子、上田等の各市を視察して調査研究の上數回の會議を開き、大正八年七月に至り、市制實施を適當と認定し町會議員と各町總代の協議會を開くことに決した

○

同年八月一日市制實施に關する町會議員、町內縣會議員、同郡會議員並に各町總代の協議會を足利學校遺蹟圖書館に於て開いたが出席者二十七名、種々熟議の結果全會一致を以て、大正十年一月一日より實施を希望するに決し、直に町役場の手で稟請書の調製に着手した。同月十一日町會招集出席者十六名市制施行稟請の件を附議し、滿場一致を以て直に稟請し、大正十年一月一日より實施を切望することを議決した

○

市制施行の義に付稟請

平和記念として當足利町に市制を施行し、大正十年一月一日より實施せられんことを稟請す

抑我足利町に市制を施行せんことは町民多年の希望なるを以て常に自治團體の整頓發達を促かし、諸般稍々完備せしものと推考す、詳細は別紙添付書類の如くにして每歲發達をなしつゝあり、大正七年末現在戶數は五千八百有餘、人口三萬五千を算す、加之本町唯一の物產たる織物は輓近著しく生產高を增加し、名聲益著はれ單に商工業地として樞要の地位を占むるのみならず、本町の資力戶口運輸交通機關の整備等諸般の現況市たる體面を具備するに至れり、而して市制の施行は將來一層町の發展繁榮を促進し、產業の發達を助長するのみならず、商工業取引に關する信用の向上其他自治行政事務取扱上町民の便宜增大するに至るべきは瞭然にして之が實施を願ふするは公益上最も適宜且つ其施行により俄かに經費の膨脹を來すが如き虞なしと確信仕り候、仰き願はくは前陳の次第に付御詮議の上願意御採用あられんことを茲に町會の議決を以て此段稟請候也

大正八年九月廿三日 足利町長 川島平五郎

栃木縣知事平塚廣義殿

○

之に足利町沿革、町市街部と村落部とを分ちたる戶口面積、町役場より隣接町村界に至る里程調、隣接町村と各種事業の關係、國縣稅町稅額及納稅人員其他多數の添付書類を以てした

に於て訓話、宣傳ビラの配布の外圖畫(ポスター)綴方(標語入)綴方、標語等による兒童作品展覽會を催し趣旨の徹底を圖り又衞生月報を發行した

平窪村先進地視察延期

平町市制施行の被合併村たる平窪村ではこれが態度決定に備へるため既報の如く村議を二班に分け東京、仙臺兩方面の先進地視察を今月中旬頃行ふ筈であつたが種々の關係で延期され來月上旬を期して出發する事となつた

無火災優良組表彰

來月三日若松市に於て開催の第二十回縣下組頭會に際し表彰される平署管內の無火災消防組並に優良組員左の如く決定、受賞者は當日午前八時迄若松市公會堂參集殉職消防組員の慰靈祭に參列する

無火災表彰組―永戸消防組 小名濱消防組

優良組員―(功績章)湯本組頭井坂千代松 (精勤章)湯本組小頭小井戸庄松 玉川組小頭橋本勇吉 平組長阿部治作 同織田萬治郎

村民の福利を目的に 平窪村有林圓滿分割
近く更生の植林に着手

過去十數年の永きに亘り紛糾を續けてゐる平窪村有林二百餘町歩の部落分割問題は草野村長もこれが解決は村更生の第一歩であると過般來各部落の間にたち解決促進を圖つてゐたが各部落の空氣も漸次和らいだので近く部落の戶數其他に應じて圓滿分割し更に部落ではこれを個人に分讓して植林せしめ村民の福利增進に努める事となつた

沼津の初取引日決り 郡下養蠶界活氣づく
出廻りは六月十日頃か

全國春繭の標準相場をたてる沼津市場の初取引は大体例年の通り來月二十七、八日頃開市の見込みがついたので郡下の養蠶界は俄然活氣立ち目下養蠶準備に忙しい、過般來の天候不順に阻まれて桑葉の發育不順を來した關係で來月上旬頃から始められる掃立も約十日位遲れるものと見られ、小川方部を皮切りに上蔟は來月末頃、出廻りは六月十日頃から弗々見られる事にならう

昨年春繭の數量は七萬九千三十七貫で相場は前年の高二圓六十八錢から一躍四圓十一錢に昂騰を示したので今年もこの好調を示せばよいがと養蠶家は何れも期待して居る

尙沼津市場に於ける初取引相場豫想は濱表の糸値が七百圓中心の軟弱歩調に加へ大製糸家に相當のストック品もあり、かつ資金難を傳へる等惡材料が山積してはゐるもの〻群小製糸家の手持は皆無に等しく昨年の尻上り相場の實例もあり、かつ初取引には採算を度外視した必要口の買ひ煽りの現れるのが通例であり、規格統一の良繭と相俟つて四十かけ五圓搦みの相場を必ず產出して見せると非常な意氣込みであると

明二十九日午後一時から磐中グラウンドに行ふ

傷つけて酌婦逃走
花の公園大騷ぎ

平町古鍛冶町加治ヤイちやん(六)は二十七日午後四時頃松ケ岡公園で內鄕村酌婦體の女が五、六人で花見してゐる處を傍で見物中女だてらに酒の上で喧嘩を初めその一人が投げつけた煉瓦のかけらがヤイちやんの右目の下に當り顏中血だけで轉倒してゐるのもかまはず當の酌婦體の女は逃走してしまつたので一時は大騷ぎであつたと

平地方を荒した廣告詐欺漢捕る
餘罪百五十餘件判明

既報、平町二丁目鶴屋旅館に泊り込み平館の使用人と稱し茨城縣眞壁郡下館町刺繡業小川清吉(四四)に裝飾用幕一張(價格百三十五圓)を注文現品を受取りながら代金も支拂はず更にそれを種に『平館へ寄附するんだから』と出鱈目を言つて平地方の商店から店名記入名儀で百餘圓を詐取して行方を晦ました栃木縣上都賀郡壬生町生れ鷲川又一郎(三六)は平署で手配中二十七日群馬縣桐生署に捕はれたが同人は昨年四月以來『この手』で本縣並に山形、宮城、群馬、栃木、茨城の六縣を股にかけ百五十餘ケ所で千餘圓の廣告詐欺を働いてゐた事判明引續き餘罪追究中

入山對高月
あす磐中で

入山對高月の野球戰は地方シーズンのトツプを切つて

贋造貨幣現はる
驛前パン屋で使用した職工風体の男

平町驛前濱洲パン屋事白土左行方に二十六日午前十時頃三十五、六歲位の職工風の男が現はれパンを五十錢分注文し十錢白銅五枚を置いて立去つたが怪しんで家人が白銅を見たところ三枚は立派な十錢白銅だが殘つた二枚は鐵板を巧みに十錢白銅と同じ大きさに打拔き更に中央に穴を拔いて周圍並に兩面をやすりで削り一見新しい十錢白銅の如く裝つたもので驚いた主人公は直に平署に訴へ出た、同署でも事件を重大視し親樓團体取締の正私服刑官に對し犯人搜索の手配をなしたが、被害者の滿洲パン屋主人の話によると怪しい男の所持する大きな蟇口は相當膨れてゐたと言ふから或は中味は全部僞銀貨ではないかと見られてゐる

恐ろしい病魔は「無職者が大好き!」
平町昨年の死亡者職業別

平町に於ける昨年中の人口動態は出生五二二名 死產三二名 死亡四四四名で同年末の人口總數が男一三、四五二名 女一三、六三一名 計二七、〇八三名

死亡原因の職業別を見ると一定の職もなくブラ〳〵遊んでゐるものが最も多くこれらのもので傳染病にかゝり死亡したものが男三十三名、女五十五名、計八十八名で最多を占めて居る處から見ると病魔も無職者には一番取つつきやすいと見える、尙原因は傳染病の百二十四名が最多で死亡年令は二十才から二十四才(二十名)と二十五才から二十九才(十六名)迄の青春時代のものが最も多い

內鄕河川改修陳情
近く村長外出縣

既報―內鄕村宮、綴地內の宮川(延長三キロ)並に新川上流の白水川(同二キロ)の河線改修促進に關し沼田村長外惡水豫防組合幹部は今二十八日平土木監督所に陳情更に一兩日中出縣陳情する事となつた

天氣豫報
小名濱測候所發表

今晚も明日も北東の風曇時々小雨

第一繼走練習

平第一校では來月五日磐中校庭に開かれる同校創立記念日第三十八回陸上運動會の小學兒童繼走出場を目指し練習中であつたが昨二十七日よりは全校生の應援を加へて本格的練習に入つた

。。。。。縣立校長出席

縣下男子中等校長會議は來月四、五の兩日白河中學に開かれ小檜山磐中、矢野平商兩校長は出席する、又同女子中等校長會議は同十一、二の兩日磐城高女で開かれると

。。。。。たみちやん家出

大阪市西成區梅通八丁目四元治郎孫吉田たみ(三)は昨年十月十七日無斷家出し行方を晦してゐたが最近郡內に流れ込んだ形跡があるから搜して欲しいと二十八日父貞藏から平署へ

經濟更生聯合支部總會

縣經濟更生委員會聯合會石城支部總會は來月五日午前十時から平開体事務所に郡下指定村委員長十五氏が出席種々更生計劃に關し打合せる

玉齋に懲役二年求刑
きのふ控訴公判

未曾有のインチキ畫伯玉齋=當時東京市板橋區大谷口町三九三無職竹田由次郎(六〇)=の詐欺事件控訴公判は昨二十七日福島地方廷で金栽判長係り石合檢事關與開廷原審通り懲役二年を求刑された

舊三月 辛巳 大安 九除 軫宿 水曜 新四月二十九日

高島易斷總本部 神誠館 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 諮判定應需

▲一白 思慮分別を廻らして努力すれば成功疑なし▲二黑 順序正しく物事を運べば失敗なし取返す▲三碧 絕々しき態度を改め自重すれば平安を保つ▲四綠 頼むは己が一心と奮勵怠らざれば功果あり▲五黃 人の言に惑はされて損失を生ずる事あり▲六白 はん悶苦勞ありて覆りあうなうする不ゆ快なる日▲七赤 後から〳〵とはん勞の重り來る可し焦るな▲八白 目上との隔意を生じ易き日死角平和が勝なり▲九紫 人々の援助加はりて諸事成就する幸運日

舊三月 壬午 赤口 十滿 角宿 木曜 新四月三十日

▲一白 互利を得んとすれば却て不滿を生ずるの日▲二黑 才力を考へて去就すれば平安に過し得べし▲三碧 發奮努力すれば大に成績を揚ぐ起業開店吉▲四綠 過分の事を思はず着々常業に滿足すべき日▲五黃 たなからぼたもちの甘き談に乘るべからず失敗ぬ▲六白 人望を失はず慾を戒めば益々幸福に惠まる▲七赤 應ばくを加へらるゝ日萬事動かぬが安全とす▲八白 樂じ過ごして進遂せざる日勉むれば功あり▲九紫 盛運の日計劃は實行に取掛るべし失物注意

二十九日 日出 四、四八 日沒 六、二一 月出前一一、四三 月沒前〇、四一 滿潮 前八、二五 後一一、四五 干潮 前三、〇五 後四、一〇

三十日 日出 四、四七 日沒 六、二二 月出後〇、四一 月沒前一、一二 滿潮前一〇、三五 干潮 前六、〇〇 後五、三〇

廣告

洋食 喫茶 宴會 平町 コンパル 電話六六六 毎度有難うございます

吸入用酸素

度量衡 モノサシ マス ハカリ 計量器 体温器 寒暖計

關內藥局 電話四〇番

公社債株式現物賣買 照山株式平支店 主任 常盤光威 福島縣平町田町五 振替東京八八一三六番 電話四十六番 電話、金融並ニ仲介